

邪黨而來者。不獨誅其原惡禍延。紅衆合行同罪。間若知情出首者。非當免罪別行厚賞。

一、天主教詭謀百出。恐爲敷教貽害之便。密附妖書器物之類。隱藏藏至者原惡處罪有科。仍又將船滅壞沒其貨物必不織容。間若稍知而出首者。無論同黨合夥輕重行賞。一、各紅人衆中。或有密受蠻惡賄賂。媒合妖類誘學唐語。使著唐衣混載而來事或有之。爾紅主等合就彼地預先查詳。設有二二不週誤載而來。及至洋中知覺。續到長崎之日宜當速首。則不論同媒及船衆等。暨恕其罪併行重賞。以上條款特遵。

上令就委通事等。傳示嚴諭若是。爾諸港來商。各宜知慎毋違毋忽。右諭知悉。

一、甲府少將へ被下候御印物  
常憲公御代寶永二年、柳澤出羽守御取立十五萬石迄に被遊、九月廿九日甲斐國被下候時分御朱印如左。柳澤本は甲州武田氏の庶流のよし披露有之候。此文段は或云、吉保諷林大學頭篤信令書之。常憲公薨御の後文昭公擧之責篤信、篤信御請の辭にて、其信然なる事を可知と云。當時都鄙傳笑

之。  
蓋信へ何と存密、眞忠之勤と申儀書中やとの御尋に候所、其時分の美濃守事、兎角可申儀無御座候と途中上候よし。

甲斐國者要樞之地而一門之歴々雖領來之。今依眞忠之勤山梨八代巨摩三郡一圓別録在宛行之畢。爲先祖之舊地可永領之者也。

寶永二乙酉九月廿九日 御朱章

甲府少將殿

一、羅馬ばてれん口狀の趣

寶永五年十一月九日、薩州より蕃客一人長崎奉行所へ被相送。則於奉行所、右ろうまばてれん口狀の趣如左。

一、三年前船二艘諸國へ仕立、一艘は北京、南京へばてれんの法を勸の爲に乗出申候。某儀は日本へ參り、法を廣め爲可申參候。一刻も早く江戸表へ被遣可被下候様にと願上候。御奉行御答には、江戸は何用事に付參度由申候やと御尋被成候へば、御前へ申上度儀御座候。法義すゝめ申爲、其外申上度儀數多御座候。

一、屋久嶋へは何といたし參り、幾日程居申候やと御尋被成候所、海上にて日本の漁船へ、水の儀尋候へば逃申候。

其節大風に吹付られ、某一人上り一日居中、翌日見あらはされ捕被申候。大乘船は風に吹きはなされ申候。此度舟出に當り爰許迄被送下候。大分物入の儀御座候間、御禮被仰付被下候様にと申候。金子の儀何程も遣申度よし申候。右の通今日日本口にて申上候。ほんはん口存居候者も御座候得共、相通不申候。所々合點參候様に相見え候得共、通不申由に御座候故、一々日本口にて申上候事。

一、右乗船人數四十人餘乘申候由。

一、ばてれん名しよあんと申候。

一、國はろうま名はいたりや、年四十、髮黒、鼻高、目は日本人同然、身長六尺身に襖佛を懸居申由。衣裳は下に四つ目の紋有之花色木綿着物、上には薩州屋久嶋にて被下候日野着物着居申候。ろそんと申所にて日本人のさかやき成に仕候由。ろそんと申所にて脇刺を調候。不殘金拵幅輪のつば。

一、さんたまり佛一躰、世界の圖一つ、書物八冊、一冊は日本言葉通用の事。但書物袋一、其身手放し不申書物二冊。一、いんす掛目九十目、元字小判二兩、但四十四包。

一、金のはりがねの内に細き十文字の印。尤十文字の合目に佛あり。是も常とは違申候。

右の外薩摩にて衣類等數々被下候由。

右者十日に御奉行御立合にて、口上御聞被成候。尤不殘日本口にて申上候。南蠻通事其外和蘭陀、唐通事等被召寄、御きかせ被成候得共、埒明不申候。其後毎日被召寄御聞被成候得共、分明の儀相聞不申候。以上。

寅十一月十日

右蕃客寶永六年春東都へ召寄、切支丹屋敷へ入置、或時新井筑後守へ御引合對談有之候所、大形通達有之候旨。

一、烈士鹽谷安右衛門の事  
享保九年十二月十一日先生御手書の内  
本多故喜十郎殿家來鹽谷安右衛門、當年二十五歳に罷成申候。去年喜十郎殿死去の節本多内記殿子孫、和州郡山城主、主家滅亡仕候儀に付、外へ罷越仕官仕心得にて無之候。其時分養子に望申者

有之候所に、手前事出家遁世も可仕心得に候へば、中々左様の儀返答にも不及由申切罷在候。其時分より自殺の合點にて候得共、萬一喜十郎殿名跡など可被仰付も難計、左候へば追腹のさたに罷成、若し障にも成候へば不忠と存候て